

「シール投票」について

小笠原学

自分は3. 1 1までに市民活動をしてきませんでしたし、街中で署名をした事ありませんでした。ですので、自身で署名集めをする事に不安がありましたし、街中で署名をしてくれる人はどれだけいるのか心配でした。ですが、自分は一度だけ街頭で「シール投票」はした事がありました。自分の様に今まで市民活動に参加した事がない人でも、「シール投票」でしたら気軽さがありますので提案させて頂きました。

「シール投票」を行う事になって、次に悩んだのは項目でした。最初はやはり、「浜岡原発の再稼働に賛成？ or 反対？」と思いましたが、この原発県民投票静岡の活動ではポイントが違うと思いました。

そこで考えたのは「原発再稼働を決めるのは誰？ 政治家 or 専門家 or 市民」でした。項目が3項目になることで選択者の迷いがでるか心配でしたが、多くの方々が市民を選択してくれました。今まで政治家・専門家の訴えてきた「安全神話」に対する不信感が、しっかりと結果にでました。そして、今まで政治家・専門家任せだった市民が、自分達の事は自分達でしっかり守らなければならないという意思が伝わってきました。

シール投票は署名活動前に意識調査と原発県民投票静岡の啓蒙的に行われましたが、署名活動中にも行いました。青葉公園での署名活動は多くの方が通りますが、なかなか足を止めてくれる人はありませんでした。しかし「シール投票」ですと気軽に参加でき、シール投票で足を止めてもらったので、署名にも繋がりやすかったです。

署名活動後に「シール投票」で感じた反省点は、選択を政治家・専門家・市民の3択にしてしまった事です。原発県民投票静岡の活動は、「市民が決める」ではなく「みんなで決める」です。政治家も専門家も市民もみんなで決めるべき問題を、3分割してしまいました。またロビー活動でも、この3択が逆に政治家の方々の気分を害してしまったかも知れません。

自分は今後も政治家・専門家・市民の方々の話を聞き、皆で浜岡原発再稼働の問題に向き合っていきたいと思います。